実　習　報　告　書

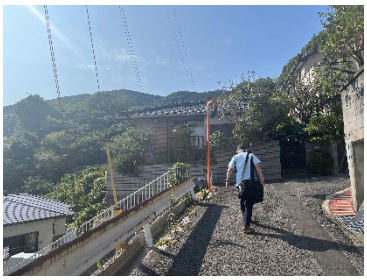
【実習生】宮崎　修平

【実習期間】: 令和 7 年 10 月 7 日（火）～令和 7 年 10 月 31 日（金）

【実習先病院名・指導医名】:
①奥平外科医院　奥平定之先生　②阿保外科医院　阿保貴章先生　③白髭内科医院　白髭豊先生　④たくま医院　詫摩和彦先生　⑤長崎記念病院　小笠原貞信先生　⑥長崎宝在宅医療クリニック　松尾 誠司先生　⑦安中外科・脳神経外科医院・安中正和先生

【実習内容の概要】:
今回の在宅医療実習では、7 名の先生方のもとで訪問診療や多職種連携の現場を体験することができた。医療はもちろん、特に介護やケアなど実生活の中でいかに患者の希望に応えるかとうい医療の最前線を見学することができた。特に長崎市は坂道や階段、狭い道路が多く、長崎市での訪問診療のニーズの高さを感じた。

①　奥平外科医院



奥平先生は神経難病(ALS)や終末期がん患者など幅広い疾患を担当されていた。ALS の患者さんに対しては、わずかな表情の変化から意思を汲み取って診療を行い、また家族の処置についても丁寧に指導されており、患者家族と強い信頼関係を築かれていた。認知症患者さんに対しては、家族や看護師さん、ヘルパーさんと連携し、生活支援の実際を学んだ。

②　阿保外科医院

阿保先生は東長崎地区を中心に担当されていました。電子カルテと連動したタブレットを活用して効率的な訪問診療を実践されていた。非常に便利だなと感じました。胆管癌末期の患者宅ではこまめに訪問し、患者の希望に合わせて薬剤調整を行っていた。娘さんが看護師であり、点滴などの管理ができる点は、非常に助かっていた。家族に医療従事者がいると、在宅医療において非常にアドバンテージであることを実感した。
手作りのワクチン接種用のボックスを準備されており、スムーズにワクチン接種できるようにされていた。

③　白髭内科医院

白髭先生は片渕・西山地区を中心に担当されていました。車が横付けできない住宅にもあり、坂や階段を上って訪問されていた。1 名遠方の方も担当されていましたが、長期間白髭内科医院がかかりつけの患者であり、家族も含めて信頼関係が築かれており、安心感につながっていた。日々の丁寧な診療、患者家族との信頼関係を大切にされてきた白髭先生だからこそなせるものだなと感じた。日々の診療の先に、在宅医療があるのだなと感じた。

④　たくま医院

香焼地区を中心に担当されていました。詫摩先生は患者さんや家族との距離が近く、診察室にはアットホームな

雰囲気がありました。慢性期疾患や認知症の高齢患者さんに対しても、生活リズムや地域環境に寄り添いながら診療されており、地域に根差した医療という印象を受けた。地域に根差し、患者背景を尊重しながら診療する詫摩先生の姿勢は、今後自分が目指す医師像にも影響を与えてくれた。

⑤　長崎記念病院

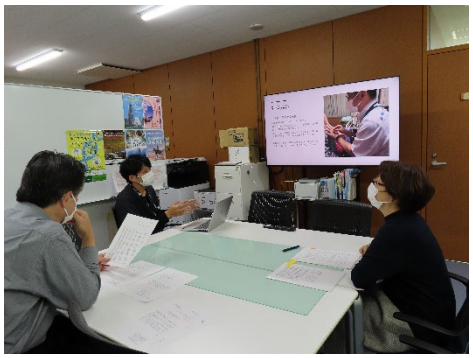
南部地区を中心に担当されており、南部は樺島と非常に遠くの地区まで担当していました。南部は人口減少が著しいですが、子供たちは少ないため、今後在宅医療が必要な人は一時的に増えそうであるといった予想がありました。階段の上に居住している高齢者の方が、デイサービスを利用したいが、階段の上り下りは別途料金が必要であるため、デイサービスを利用できない患者がいた。長崎は土地柄坂や階段が多く、長崎の在宅医療は、他の地域と比べて居住環境が及ぼす影響が非常に強いと感じた。他の院と違い、個人医院でない在宅医療であり、病院機能を地域に広げている試みが印象的であった。

⑥　長崎宝在宅医療クリニック

在宅専門の大規模クリニックで、医師 4 名が広範囲をカバーしていた。サービス付き高齢者向け住宅も管理され、いろんな患者の在宅医療に対応できる環境が整っていた。松尾先生の「24 時間いつでも駆けつけるから」という言葉が、患者と家族の信頼を支えていた。また、在宅医療は cure に加えて care が大切である、行き先が難しい患者にストーリーをつくってあげるといった言葉は、長年在宅医療の最前線で診療をされてきた松尾先生の熱い思いが伝わってきた言葉であった。また、在宅での入浴サービスを見学させていただいた。

⑦　安中外科・脳神経外科医院

安中先生は市中心部から愛宕地区など幅広く担当されており、0 歳児から高齢者まで様々な患者を担当されていた。18 トリソミーの患者への訪問では、家族と一緒に、懸命に生きる命を支える医療チームの懸命な姿に胸を打たれた。安中先生の断らない姿勢に、地域医療、在宅医療にかける思いを感じた。

在宅医療実習を通じて、患者の生活や家族、社会背景を含めて診ることの重要性を肌で実感することができた。どの先生も、医療的処置だけでなく、患者が何を希望しているのかを何より大切にされていた。放射線治療医としてがん患者を診る中で、急性期病院で勤めているとなかなか終末期の実際を見ることができないため、今回の実習は非常に勉強になった。長崎の土地柄や患者背景、家族状況などを考慮にいれて、在宅医療と連携しながら患者の QOL を最大化できる医療を実践していきたい。

実習報告会の様子